

女性も働きやすい世の中とは？

新聞社の切り抜きコンクールで最優秀賞を受賞した次世代の中学生に、「女性も働きやすい多様性ある社会の実現」について、語ってもらいました。



みずたに なつこの
水谷 奈都乃さん
第二中学校 3年

半年かけて記事集め

2年生の1学期に総合の授業でNIE教育授業を受け、グループで作品を制作しました。その後、先生から声をかけられコンクールに応募することになりました。

作品の制作期間が半年間だったため、このテーマなら、いつまでも新鮮味のある記事だと思い選びました。

「平等」ってなんだろう

タイトルで「女性も」と、「も」を使ったのは、男性にとっても働きやすい世の中を考えないといけないと思ったからです。この期間は、ちょうど都議会のヤジ問題があり、そこに日本的なものを感じたので取り上げてみました。私は、働く側

の意見も働かせる側の意見も両方わかるので、社会の仕組みが社会の現状に合っていないのではと感じました。単に女性を底上げすれば良いというのではなく、さまざまな問題が絡み合っている。学校の先生から「背の高い人にも背の低い人にも同じものを与えるのが平等なのか？それとも、それぞれに合ったものを与えるのが平等なのか？」と問われ、平等について悩みましたが、「自分にあったものを自分で選ぶことができることが平等」と自分で答えを出しました。

壇上でスピーチ

作品作りを通じ、考えるのが楽しかったし、考えるのが好きだと自覚できました。新聞社で行われた授賞式では壇上でスピーチをしました。「新聞を読んで気がついたことがあり、読んだからこそ考え方が変

わった」ということを皆さんに伝えました。

私が考える「女性も働きやすい世の中」

現在、能力が一緒なら時間の縛りが無い人が有利になっていますが、女性に限らず様々な立場の人を入れて、その違いを大事にする社会にしていけば良いのではないかと思います。また、長時間勤務の解決は、家でも仕事ができる仕組みを作れば、女性だけでなく、男性も変わっていくのではないかと思います。

将来 私は・・・

平和な世の中を作ることに関わりたいです。それと、これから公民の授業が始まります。新しい価値観や考え方に会えると思いますので、これからも興味のあることに挑戦していきたいです。



新聞切り抜きコンクール作品
テーマ:「女性も働きやすい世の中とは」

人とつながることが楽しい

正社員を辞めた後、母の介護をしつつ出来る仕事を探しました。そんな中「起業」という選択を知り、事務のお仕事と、大好きな撮影が出来るパーソナルアシスタント・個人秘書を始めました。

個人事業主さまのイベント・セミナーの会場リサーチや予約手配、当日の様子撮影などを行っています。また、事務サポートとして、データ管理、メール代行、入金管理などを行っています。最近では、講演会のアシスタントや、フラメンコや英語ヴォーカルの発表会の撮影&サポートなどがありました。

仲間からアドバイス

気を付けていることは、日々、気を抜かないことですかね。日頃から、服装や姿勢などきちんとしておくようにしています。そして笑顔を

大切にすることを心がけています。

講座に参加したことで、仲間ができて、そしてつながった方々から更につながりが出来ました。先に起業した方からアドバイスいただいたり、イベントを主催されている方から声をかけてもらえるようにもなりました。人とつながることが楽しいことに気づき、ご縁をつなぐご縁会(ご宴会)という異業種交流会も立ち上げました。

家族の理解が一番必要

女性の社会進出には家族の理解が一番だと思います。お仕事が増えると、家族に対する時間が減ってしまいます。自分のペースで無理なくできることが大切ですが、家族の理解が重要です。

そして、「ご縁」が大切です。人とのつながりを大切に。

仲間がいて、「起業」がある！



もりと ようこの
森戸 陽子さん
塚越在住 40代

女性の働き方、起業の実際は？

女性の働き方の一つとして注目される「起業」を実現した方、またこれから起業する方、お二人にお話を聞きました。



たきざわ まきこさん
塚越在住 30代

起業に向けて、準備中です！

色々な経験があって

結婚後退職し、薬剤師の資格を活かしてフルタイムまたはパートタイムでの仕事を探していたのですが、条件が合わず当時は断念。その時、『起業』というスタイルでの働き方を知りました。

起業へのステップとして『親子みらいフェスタ』でオリジナル缶バッジ作りのワークショップを出店したのは、良い経験でした。

たくさんの人に知ってほしい

ブログやSNSを使ってイベント告知などを行っています。オリジナル缶バッジ作りは、人とのつながりを創るための方法の一つです。ブログやSNSも同じで、たくさんの人に(私

を)知っていただいて、そこで起業につながるような何かを見つけないと思っています。また、起業している方からアドバイスをもらっています。『ブログやSNSを使って、多くの人に知ってもらい、たくさん声を聞くことで起業につながるチャンスがある』と言われたので、今は自分を知ってもらうことを中心に進めています。

起業に向けて

以前は子供服の手作りをして販売したりしていましたが、費用面を考えるとなかなか難しいです。やりがいのある仕事で、ある程度収入がある仕事が良いですね。

イクメン・料理男子

フォトコンテスト

募集中



あなたのカメラで、「イクメン」・「料理男子」を撮ってみませんか！



応募期間 平成27年9月30日（水）
 応募資格 蕨市内に在住または在勤・在学の方
 応募方法 (1) 2L版サイズの写真で応募
 (2) 400万画素以上の写真データで応募
 ※応募の詳細につきましては、市ホームページ及び作品募集チラシをご覧ください。

編集後記

このたび編集委員の入れ替わりがありました。まだまだ取り上げていないテーマがありますので気分一新、読者の皆さんに満足していただける誌面作りに勤めたいと思います。次の50号もどうぞ期待！（す）

パートナー第49号

2015年9月1日発行

企画編集 パートナー編集委員会

蕨市市民生活部市民活動推進室

編集委員 加藤 光男 蔵迫 祥子

新妻 朋子 杉山 節子

阿部三恵子

〒335-8501 蕨市中央5-14-15

電話 048-433-7745

Eメール

siminsit@city.warabi.saitama.jp



蕨市配偶者暴力相談支援

センター事業を開始しました。

蕨市では、平成27年4月1日から「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(DV防止法)に基づき、蕨市配偶者暴力相談支援センター事業を開始しました。センターでは、配偶者等からの暴力

(DV)に関する相談に応じるほか、被害者の自立や支援に必要な情報の提供や関係機関との連絡調整、援助等を行います。予約は不要です。先ずはお電話でご相談ください。

相談日時：月曜日から金曜日（祝日・年末年始を除く）午前8時30分～午後5時15分

※火・木（祝日・年末年始を除く）午前9時～午後5時は、女性相談員が対応します。

緊急性の高い場合には、迷わず110番してください。

相談窓口：蕨市配偶者暴力相談支援センター

電話：048-433-7745

☆ただいまパートナー編集員募集中です。興味のある方、ぜひ上記までご連絡ください。